

韓国・知識財産処 (KIPO) が進める「IP-AX」：バイブコーディングによる行政DXの革命

従来の公共IT開発 (外部調達)



開発期間:
数ヶ月～年単位



開発コスト:
巨額の外部予算が必要



開発主体:
外部SIer (システム
インテグレーター)

現場主導の開発エコシステム「IP-AX」

バイブコーディング (Vibe Coding)

専門的なプログラミング言語を使わず、
自然言語による対話のみでAIがコードを
自動生成し、アプリを具現化する手法。



幹部による トップダウンの実践

処長を含む幹部がワークショップ
で自らツールを開発し、AI駆動型
の迅速な意思決定構造を構築。



「開発・共有・拡散」の循環



開発したアプリを「社内AIアプリス
トア」で共有し、全庁的な再利用と
改善を促す独自の制度設計。

バイブコーディング (Vibe Coding)

専門的なプログラミング言語を使わず、自然言語による対話
のみでAIがコードを自動生成し、アプリを具現化する手法。



バイブコーディング (IP-AX)



開発期間:
数時間～数日



開発コスト:
追加予算ゼロ



開発主体:
現場の審査官・事務官
(内製)

IP-AXがもたらす革新的成果

高度な政策支援AIエージェント群



報道資料分析



海外動向監視



知財法規
モニタリング

報道資料分析 (Gov.AX)、海外動向監視、知財法
規モニタリングなどのツールを内製で構築。

開発コストとリードタイムの劇的削減



外部発注による年単位の遅延を解消し、追加予算
ゼロかつ数時間から数日での実務配備を実現。

専門職の価値を「高度意思決定」へシフト



定型作業



知財戦略立案

定型作業をAIに委譲し、審査官は高度な技術
解釈や知財戦略立案といった高付加価値業務
に集中。